

第16回全日本ユース(U-16)水球選手権大会－桃太郎カップ－【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター 【2023/12/25】

この試合のプレー集計

男子Cリーグ戦

群馬県選抜

8

2	－	0
2	－	0
4	－	0
0	－	2

2

広島県選抜

PSO

潮崎 正一

審判：

武松 直輝

群馬県選抜	18	SH数	17	広島県選抜
	3	速攻数	1	
	10	ST・SB	6	
	2	SH・P誘発アシスト	2	
	75%	GK阻止率	33%	
8	EX反則数	4		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

実力差はあるものの、広島がどこまで挑戦意欲を持って戦えるか。攻撃力のある群馬に対して臆することなくどこまで果敢に前でボールを止められるか、そうした積極的なディフェンスをリーグ戦最後に発揮してもらいたい。

【1P】

序盤から群馬の攻撃力に広島は圧倒され、ペナルティで群馬が先制(④齋藤)。その後も群馬が加点するが、ピリオド中盤からは広島も十分にディフェンス対応し、広島センター⑤藤野で群馬にプレッシャーをかける展開に持ち込み、群馬2-0広島で第1ピリオド終了。

【2P】

センターボールからの攻撃で群馬は③椎名が決めて3点目。しかしこの後は長いラリーとなり、ピリオド終了直前に群馬が6-5のカウンター攻撃で③椎名が追加点を奪って、群馬4-0広島で前半を折り返した。群馬はカウンター攻撃、センター攻撃と多彩に攻め続けるが、ラストパスやシュートに正確性を欠き、なかなか得点できない展開となった。広島はセンター⑤藤野、⑩上田を軸に攻撃するが、センターポジションでの脚力がまだ不足していて、いいパスが入るのだが、そこから足を使ってプレー出来ないため、群馬にボールを奪われてしまう状態が続いた。位置取りなどはいいものを持っているセンターなので、全国大会で活躍するための基礎固めをしっかりとすると面白い存在になりそうな雰囲気のある選手たちだ。

【3P】

もたもたしていた群馬だったが、ピリオド開始早々、リーダー④齋藤が決めると、怒涛の攻撃で広島を圧倒。ピリオド前半で4連続得点。しかしピリオド後半は選手を入れ替えたことも影響して攻撃がつかず、逆に広島側の猛攻が続く展開となった。退水をたびたび誘発して群馬を脅かすも、最後のシュートが決まらない状態が続き、このピリオドも無得点で、群馬8-0広島で第3ピリオド終了。

【4P】

群馬は中学生主体の選手交代で、こうなると広島は五角以上の戦いが可能になった。群馬はゴール前まで攻め上がることができずにボールは広島へ。広島はカウンター攻撃なども出せるようになり、試合の主導権は完全に広島へ。退水攻撃などで2得点をあげ、逆に群馬を零封。ピリオドは群馬0-2広島と、広島の元気の良さが目立った。トータルでは群馬8-2広島で、群馬がブロック1位で決勝トーナメント進出を決めた。

ここ数年、広島のジュニア水球は活動の裾野を広げて選手層を厚くしてきている。しかしその分、個人レベルでの練習量や質はまだ追いついていないところがあり、今大会でもそうした個人の基礎技能不足を露呈していた。今後は個人のレベルアップに対する意識づけや練習方法といった視点で、指導者陣がどう取り組んでいくか。今大会運営に従事した若手も多く、そうした若手の力量アップや熱意も広島水球の底上げに寄与するので、柳川監督を中心に育成強化を図ってもらいたい。